

に取り組む同社の姿勢から「棚田の持つ機能」や、自然再生な

新入・幹部社員研修

四月三日、平成十九年から毎年行われている横浜ゴム新城工場新入・幹部社員研修が四谷の千枚田で行われた。

新入・幹部社員三十名は市地域整備課太田課長の歓迎の挨拶の後、小山舜二から見たとおり厳しく、生産性の低い棚田の守り人の辛苦の話、また、本年は環境保全、生物多様性



どを取り入れて話を進めた。社員たちは険しい棚田の坂道を真剣に学びながらふれあい広場に到着。

ふれあい広場では小雨の降る中で植栽されたツツジの斜面などの草刈り、草取りを真剣にして頂いた。保存会のメンバーが社員の労をねぎらうため農作物をふんだんに食べさせた地元産のイノシシ汁を支度、昼食、交流会の準備を行っていたが、やまない雨に急遽会場を身平橋集会場に移動。

昼食は保存会のおつ母ちゃんたちが心を込めた「味飯」とシシ汁を振舞った。社員たちはシシ汁や味飯を何杯もお代わりするほど好評でもてなす側もとっても嬉しかった。交流会は例年のごとく松下事務局の軽快なテンポの司会で盛り上がりを見せた。

交流会の初めに穂積市長から「本市の優良企業である横浜ゴムの新入、幹部研修を平成十九年から千枚田を会場に行われており、毎年、お邪魔している。この、研修・交流会



が取り持つ縁で企業が環境を重視する先駆的な取り組みをなされ、その一環として千枚田の稲藁を購入していただいております。耕作者も喜んでいただいております。社員の皆さんにお願いがあります。それは、暮らしやすい本市に住して「税金をたくさん納めてください」と歓迎の挨拶をされた。

県新城設楽農林水産事務所官林建設課長は「四谷の千枚田」は市の宝、県の顔でもある。県としては「ふるさと指導員の活動支援」を積極的に行っていく所存である。また、環境に恵まれた千枚田に愛知県第一

号の小水力発電装置の設置を行っている。等々の挨拶をされた。新入社員は「先輩を見習い、早く仕事を覚えて立派な社員を目指す」。工場長・幹部社員は「辛いこともあるが周囲に相談してほしい。我慢をすれば今がある」等々、我が身を持った励ましの言葉を贈った。終わりに、いつもお世話になっている藤沢さんから保存会のメンバーにお礼の言葉を頂き、高橋副会長が「無事、研修を終了」。



### お釈迦さま

三月二十六日、身平橋の海源庵で  
お釈迦様の命日の涅槃会が行われ、  
花草団子をお供えし、そのお下がり  
が配られた。



お釈迦さまは今から二千五百八  
十年前にインドの王子として旧暦  
の四月八日に生まれ、二月十五日、  
八十歳で亡くなられた。花草団子が  
色付けされているのはお釈迦様の  
舍利(お骨)が五色に輝いたことと、  
入滅を悲み沙羅の花びらを降らし  
たという伝説から「クチナシ」や「ヨ  
モギ」などで色づけした花の形の団

子をお供えしたことが所以である。  
命日には動物も植物も皆集まり、そ  
の功德に嘆き悲しんだ。唯一、イノ  
シシはその場に間に合わなく、マム  
シは来なかったと聞く。その様子は  
写真の涅槃図に描かれている。

### 連谷小学校

#### 卒業式と入学式

・三月十九日、全校児童五名のうち  
小山健斗君は児童、父兄、来賓、お  
世話になった先生達に祝われなが  
らたった一人の卒業式が行われた。  
・四月八日、ピカピカの一年生とし  
て中村真帆ちゃんの入学式が行わ  
れた。真帆ちゃんは四人の先輩と勉  
強や運動、千枚田での校外学習など、  
少子校ならではの楽しい学校生活  
が始まる。

### お花見会

三月三十一日、連谷ふれあい交流  
館においてお花見会(約五十名参加)  
が開かれた。

当日は琴の生演奏のなか、お茶会  
や食事が盛況に行われた。

### 千枚田 見ごろ撮り頃

ゴールデンウィーク頃から田ん  
ぼの代掻きが始まり十日前後頃か  
ら田植えが始まる。一番の見ごろ



「千枚の水鏡」は中下旬となる。

(写真は例年の五月二十日頃である)

### クマタカの飛来

三月二十一日、千枚田の上空に二  
羽のクマタカが飛来した。

初日はピツ、ピーと啼きながら



ペアリングが見られた。翌日と翌々  
日は一羽のみの飛来で、おそらく交  
接が無事行われたものと思われる。  
巣作りは「ミサゴ」山の周辺で、  
幼鳥の飛ぶのが楽しみである。  
モリアオガエル、ヤマアカガエル  
の移植が起因した田園自然再生(生  
物多様性・自然の摂理等)が実証され  
た証である。

行 平成二十五年四月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二